

第6回鹿野地域振興会議

日 時 平成28年11月15日(火)

13:30～15:30

場 所 鹿野町総合支所 会議室

出席者 井上秀隆委員、乾隆史委員、佐々木千代子委員、筒井洋平委員、田中文子委員、
林輝幸委員、伊井照幸委員、兼平恵委員、山下直司委員、廣田敬祐委員、10名
出席

事務局：徳岡支所長、乾副支所長、上野市民福祉課長、西浦地域振興課補佐

傍聴者：なし

1 開会

2 会長あいさつ

寒くなりました。今回は支所共通の議題はありませんが、委員提案などで委員さんの
の共通認識を深めたいと思う。

3 報告事項

(1) 経過報告について

事務局より資料1を基に説明

委員2 11月26日鹿野中学校で開催の「表鷲の巣立ち式」の広報をお願いしたい。中学生
がしっかりした意見発表する姿を町民の方にも見ていただきたい。

委員1 12月3日開催の「ロングトレイル」の実施主体はどこか。

事務局 白兎鹿野ウォーク実行委員会で、鹿野往来交流館や白兎観光協会などが実
行委員会に入っている。

4 議題

(1) スクールバスの廃止と対応について

事務局より資料2を基に説明。

委員5 スクールバスが廃止となり、循環バスの運行で対応するのか。

事務局 朝1便、午後2便の循環バスを運行する。料金は200円で、住民も利用できる。

委員3 循環バスのバス停の時刻表の文字が見えにくいし、表示位置を見やすいものに

してほしい。

事務局 検討してみる。今回循環バスを利用して、スクールバスの役割を果たしていくが、オンデマンド、有償過疎バスの取り組みなど公共交通にかかる課題がある。

(2) 委員提案について

①鹿野地域の自主防災会の取り組み状況について

事務局より資料3を基に説明。

会長 大工町自主防災会は4つの自主防災会が地区消防団員の指導を受けて訓練を行い、矢原自主防災会は消防職員のOBが指導者となって活動している。各自主防災会の中にリーダーとなる人が必要である。

委員4 自治会会長が自主防災会の会長を兼務したり、役員が1年で交代しているところが多い。役員を複数年行い、事業内容を把握した方がいい。紺屋町自主防災会は自治会のイベントの時に併せて、自主防災会の訓練を行っている。

委員5 下町自主防災会は年2回の訓練を地区消防団員に協力していただき行っている。昼間は老人しかいないので、訓練も老人を対象として、消火栓を利用した訓練としている。防災資機材の購入にあたって、地区消防団員の意見を参考にしている。

委員1 自主防災組織への各助成金もあるが、防災機材整備補助の目的は何か。

事務局 自主防災組織の各助成金以外での防災機材の充実を図る。

委員6 自治会の女性部で災害時の非常袋の作成やAEDの講習会を予定している。

会長 講習会を開催する場合に講師の派遣はどうか。

事務局 講師派遣はできる。

委員2 防災における個人情報（独居老人、施設入所者など）の提供が必要ではないか。

委員5 自治会内での情報共有が必要であるし、日頃からの隣近所の付き合いが大切だ。

事務局 避難行動要支援者の名簿は民生委員へ提出している。自主防災会の中でも地域コミュニケーションを高めていただきたい。そのために訓練をしたり、補助金制度を利用してほしい。

②いじめについて

委員より資料4を基に説明。

事務局 鳥取市として、国へいじめ、不登校問題行動の月例報告をしている。鹿野小・中学校とも 27 年度 0 件、28 年度現在 0 件である。0 件の場合、学校教育課が些細なトラブル等がないか聞き取りを行っている。

委員 2 いじめは暴力だけでなく、無視することもいじめである。上級生から下級生へのいじめがあるかもしれない。先生が目配せが必要である。湖南学園でのいい所ばかり見てはいけない。

委員 7 具体的にはわからないが、目に見えないところでいじめはあると思う。いじめられた子が、いじめにあっているといたくない子がいる。子どもたちの社会は大人の社会の縮図でもある。子どもたちに第 3 者の大人の人も見ているということを感じてほしい。

委員 4 いじめの芽や前兆を捉えることが大切だ。教員の感度を上げる必要がある。教員自体がいろいろと忙しいようだが、生徒にいじめる側が 100%悪いという立場をはっきり教えることが必要だ。何回でも教えていくことだ。

委員 7 授業中以外にいじめがある。休憩時間でも第 3 者の大人の目が届くところがあればいい。

会長 子ども同志での解決していく力も必要だろう。また、学校内に地域の方の出入りやいろいろな視線があった方がいい。

③鹿野地域の特産品の育成について

・そばについて

事務局 そばの生産目標は 50 h a としているが、農業共済台帳によると 28 年度 32.6 h a である。

会長 そばをつくる地域おこし協力隊員を募集してはどうか。

委員 7 耕作放棄地にそばを作ってくれる地域おこし協力隊員が来てくれればいい。地方では 1 つの職業で食べていくことは難しいので、2 つ以上の職業を持ってやっていたらいい。たとえば、そば栽培をしながら、そば道場で働くとか。複合的に考えてみる必要がある。

事務局 地域おこし協力隊員の任期は 3 年である。そば栽培はずっと続けていかなければならない。モアという耕作機械を利用した簡易な経費の安い栽培方法も提案している。将来に渡って、そば栽培が儲かる仕組みが必要である。

委員 5 そばに限らず、地域別の農産物を作る必要がある。そのことが農産物の価格を守ることにとなり、生活の安定にもつながる。ただ、現在、地域別のコーデネイト、プロデュースを行う人や会社がない。

・果樹の里について

委員 7 平成 27 年度から河内の耕作放棄地に果樹を植えている。5 年をかけて果樹の栽培や加工を行うとともに、観光農園の運営ができればいいと考えている。イチジク、クリ、レモン、梨、ヘーゼルナッツなど 1000 本を植栽する計画を立てて、平成 28 年度までに 550 本植栽している。植栽には鳥取西高校や大阪国際大学・鳥取大学の学生に協力してもらっている。

河内集落の方と学生との交流も深まりつつあり、地域のコミュニティの広がりや賑わいのある村づくりにも貢献している。

会長 果樹を栽培し、実を取り、ジャムなどに加工する。それらの商品を販売していくルートが必要である。地域の 75 才の老人たちが主体となっているが、地域の人は開放的になり、元気になっている。

委員 4 果樹が大きくなり、花が付いたら、ニホンミツバチを飼ってみてはどうだろうか。倉吉市の明倫地区でニホンミツバチを飼っていたようだ。

・どじょうの養殖について

事務局より資料 5 に基づき説明。

特に意見はなし

(3) その他

①鳥取西道路の全線開通と平成 29 年中の一部供用開始について

特に意見はなし

②地域振興会議委員選考スケジュールの説明をする。

特に意見はなし

5 その他

次回は平成 29 年 1 月 20 日(金)午後 3 時より鹿野町総合支所で開催予定。

6 閉会